

授業科目	聴覚障害Ⅱ（聴覚検査法）				
担当者	矢吹裕栄・立石篤識・福田信二郎				（オムニバス）
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 授業目的・内容

- ・聴覚障害の特徴や分類、原因を知り、その検査法を学ぶ。（立石）
- ・聴覚検査の基本について学び、難聴の発見方法、補聴の方法とその評価方法について学ぶ。（立石）
- ・聴力の評価を基にした、ことばやコミュニケーションのリハビリテーション・発達支援の方法、また保護者等への支援について学ぶ。（立石）
- ・前期の学習内容から更に聴覚検査法の基礎を確認する。そして、今まで学習した解剖・機能と検査等の基礎知識との関連を確認する。また、人工内耳の原理と機能、調整の基礎を確認し、装用者の事例を知る。（矢吹）
- ・標準純音聴力検査・語音聴力検査・インピーダンスオージオメトリー・自記オージオメトリー・SISI 検査・ABR 検査について、実際の聴覚検査機器を用いて手順と方法を学ぶ。（福田）
- ・幼児の聴力検査について、聴覚検査機器などを用いて、ロールプレイしながら学ぶ。2年の聴覚障害Ⅲの準備教育として、臨床における補聴器装用について学ぶ。（福田）

■ 到達目標

- ・聴覚障害の基本知識の理解とその評価法を知る。（立石）
- ・聴覚検査法の実施方法とその評価方法を理解する。（立石）
- ・補聴方法とその効果の評価法について理解する。（立石）
- ・聴覚器・疾患・検査結果の関連を整理する。人工内耳の仕組みを理解する。人工内耳装用者の実態を知る。（矢吹）
- ・検査機器の構成と検査の目的および手順について説明できる。（福田）
- ・幼児の聴力検査について、種類と方法、適応年齢をいう事ができる。補聴器の構造と装用について概略を説明できる。（福田）

■ 授業計画

- 第1回 耳の構造と機能・聴覚障害の検査法（立石）
- 第2回 小児難聴の早期発見・新生児聴覚スクリーニング検査と精密聴力検査（立石）
- 第3回 難聴の分類と原因（立石）
- 第4回 幼児聴力検査（立石）
- 第5回 補聴の方法と補聴効果の評価方法（立石）
- 第6回 聴力の評価を基にした療育や発達支援の方法（立石）
- 第7回 聴覚検査法1：主な聴覚検査の概要を確認する（語音聴力検査）（矢吹）
- 第8回 聴覚検査法2：主な聴覚検査の概要を確認する（他覚的聴力検査）（矢吹）
- 第9回 聴覚検査法3：主な聴覚検査の概要を確認する（その他の聴覚検査）（矢吹）
- 第10回 聴覚障害の原因となる疾患を復習する（矢吹）
- 第11回 聴覚器・疾患・検査結果の関連を確認する（グループワーク）（矢吹）
- 第12回 聴覚障害の評価と支援の基本的な流れを確認する（矢吹）
- 第13回 聴覚障害のケースポート作成の流れを確認し、今までのまとめを行う（矢吹）
- 第14回 標準純音聴力検査について（福田）
- 第15回 標準純音聴力検査の検査演習（福田）
- 第16回 インピーダンスオージオメーターについて（演習含む）（福田）
- 第17回 語音聴力検査について（福田）
- 第18回 語音聴力検査の検査演習（福田）
- 第19回 Bekecy 検査について（福田）
- 第20回 Bekecy 検査の演習（福田）

- 第21回 閾値上検査について（演習含む）（福田）
- 第22回 聴性脳幹反応聴力検査（ABR）について（福田）
- 第23回 聴性脳幹反応聴力検査（ABR）の検査演習（福田）
- 第24回 聴覚検査結果の解説 検査目的と意義（福田）
- 第25回 幼小児の聴力検査（新生児聴覚スクリーニング検査、BOA）（福田）
- 第26回 幼小児の聴力検査（VRA、COR、ピープショウ、遊戯聴力検査）（福田）
- 第27回 発達遅滞例の聴力評価（福田）
- 第28回 発達遅滞例の聴力評価（臨床の実際）（福田）
- 第29回 補聴器の構造と機能（福田）
- 第30回 まとめ（福田）

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・資料は国家試験の過去問や基礎知識を基に作成しています。復習をしっかりと行ってください。（立石）
- ・前期の聴覚障害Ⅰの内容を踏まえて授業が進みます。聴覚障害Ⅰの内容での理解に不安のある場合は復習をしておく必要があります。（矢吹）
- ・各種聴覚検査の目的・適応・方法について理解すること。空き時間をみつけて、学生同士で互いに測定しあい、標準純音聴力検査およびティンパノメトリーのプローブ装着が適切にできるようになること。幼小児の聴覚検査の種類と適応年齢について覚えること。補聴器の基本的な構造と機能を説明できるようになること。（福田）

■ 教科書

書名：聴力検査の実際（改訂4版）

著者名：日本聴覚医学会 編

出版社：南山堂

書名：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版

著者名：藤田 郁代

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

- ・基本的に学習内容は講義で使用するスライドに記載されています。講義はスライド中心で進行します。必要に応じてビデオ視聴も行います。（矢吹）
- ・各種聴覚検査演習では、座学で理論を学び、その後に実際の検査機器を操作する演習を行います。
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。